

(5) アレルギー科

アレルギー科医長 大矢幸弘

はじめに

当科の母胎は国立小児病院アレルギー科であるが、国立成育医療センターへの移動に伴って、総合診療部小児期診療科と第一専門診療部アレルギー科に二分して配属となり、半減した戦力でのスタートとなった。平日は毎日外来に追われ、病棟診療やカンファレンスが深夜に及ぶこともあったが、人員の増強に伴い年明けから少しずつ状況は改善されつつある。

①診療および研究の要員

平成14年3月1日から平成15年3月31日までの間に在籍したアレルギー科のメンバーは以下の通りである。

大矢幸弘（医長、平成14年3月1日～）

須田友子（医員、平成14年3月1日～）

渡辺博子（レジデント医師、平成14年3月1日～3月31日、国立神奈川併任医員 4月1日～）

丹 愛子（レジデント医師、平成14年3月1日～4月30日）

篠原示和（スーパーレジデント医師、平成14年4月1日～平成15年3月31日）

赤司賢一（レジデント医師、平成14年7月1日～）

成田雅美（スーパーレジデント医師、平成14年12月1日～）

Batchelor Jonathan（英国医師・大和日英基金留学生、平成14年9月1日～）

益子育代（ケアコーディネーター、平成14年3月1日～）

松本美江子（心理療法士、ミレニアムプロジェクト研究員、平成14年3月1日～）

小嶋なみ子（心理療法士、研究補助員、平成14年9月1日～）

亀井聡信（短期研修医師、平成14年5月1日～5月31日）

②診療

当科は主に気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、及びその他の様々なアレルギー疾患の患者の診療を行っている。主な疾患について列記する。

- 1) 気管支喘息の診断と治療および合併症の診断と治療
- 2) アトピー性皮膚炎の診断と治療および合併症の診断と治療
- 3) 食物アレルギーおよび食物依存性運動誘発アナフィラキシーの診断と治療
- 4) 薬物アレルギーの診断と管理
- 5) ラテックスアレルギー及びラテックス・フルーツ・口腔アレルギー症候群の診断と治療
- 6) IgA欠損症、高IgE症候群など免疫異常を伴うアレルギー疾患の診断と治療
- 7) 上記の疾患に合併したアレルギー性鼻炎・副鼻腔炎の診断と治療
- 8) 多型滲出性紅斑や蕁麻疹の診断と治療
- 9) 昆虫アレルギーや動物アレルギーの診断と治療
- 10) 過敏性肺臓炎・シックハウス症候群などの鑑別と治療
- 11) 難治性喘息や重症アトピー性皮膚炎の管理と治療
- 12) 上記の疾患に関連する様々な心理行動的問題への行動医学的アプローチ

③治療方針

(a) Evidence-Based Medicine：日本だけではなく、海外の研究論文および学会報告から最新の情報を収集し、最も Evidence の水準の高い知見に基づいた治療を提供する。また明確な Evidence のない領域に関しては自らの臨床経験に基づき判断するが、一方で臨床研究を企画・実施し、ガイドラインの改訂に必要な水準の高い Evidence が提供できるようにしたい。

(b) Narrative-Based Medicine：治療方針を一方的に決定するのではなく、まず患者の立場に立って情報収集を行い（傾聴）、双方が納得した上で治療を行うことを基本としている。

(c) Behavioral Medicine：生物医学モデルに基づく薬物療法だけでなく、生物心理社会的医学モデルに基づく包括的な医療を行っている。特に重症患者や難治性アレルギー疾患の治療においては不可欠のアプローチで、疾患自体のコントロールの改善はもちろん QOL の向上も治療目標としている。

④研究（研究業績は別掲）

平成14年度に助成を受けた研究課題

- 1) 住居内空気汚染等とアレルギー疾患との関連に関する疫学的研究（分担研究者：大矢幸弘、厚生労働科学研究費補助金 健康科学総合研究事業）
- 2) アトピー性皮膚炎の既存治療法の EBM による評価と有用な治療法の普及（分担研究者：大矢幸弘、厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療等研究事業）
- 3) Evidence-based Narrative Therapy for childhood atopic dermatitis（主任研究者：大矢幸弘 財団法人聖ルカ・ライフサイエンス研究所研究助成事業）
- 4) 患者向け医療情報の信頼性の評価に関する国際研究 ―DISCERN 日本語版の開発とアトピー情報の評価および国際比較―（主任研究者：大矢幸弘 ファイザーヘルスリサーチ財団国際共同研究事業）
- 5) 成育医療における患者・家族の前方視的研究（分担研究者：大矢幸弘 成育医療研究委託事業）
- 6) 小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究（研究協力者：大矢幸弘、厚生科学研究費補助金 子ども家庭総合研究事業）
- 7) アトピー性皮膚炎の病態と難治化因子の解明、治療法の確立に関する研究（分担研究者：大矢幸弘、国病国療共同臨床研究）

新薬の治験への協力

治験管理室および総合診療部小児期診療科と共同で行っている。平成14年度は MK476 第Ⅱ相非盲験非対照試験、MK476 長期投与試験及び MF-DPI 臨床第Ⅲ相試験を行った。

研究所免疫・アレルギー研究部ミレニアムプロジェクトへの協力

総合診療部小児期診療科と共にミレニアムプロジェクトの一環である「遺伝子解析による喘息等アレルギー疾患対策・創薬推進事業」に協力している。

平成11年末に発足した学際的研究会である「**子どもの心・体と環境を考える会（日本子ども健康科学研究会）**」の事務局を担当している（事務局長 大矢幸弘）

⑤教育・研修

院内：

医学部学生のポリクリ・見学や他施設医師の研修、心理学系大学院生や薬学系大学院生の見学実習などに応じてきた。またコメディカル、レジデント医師向けの勉強会を開催した。

院外：(学会発表は別掲)

- 1) 大矢幸弘 「アレルギー疾患の対策と予防」平成14年7月12日 春日井保健所管内栄養士研修会
- 2) 大矢幸弘 「誤解だらけのアレルギー ～本当はどうなっているの～」 平成14年9月9日 寝屋川市市民講演会
- 3) 大矢幸弘 「思春期保健・病院との連携」平成15年1月29日 国立保健医療科学院思春期保健講座